

カジノ必勝法 ～マーチンゲール法～

第12期 OB 荒井 礼

現地時間0時前、4000香港ドル（≒約5万円相当）を握りしめ、眠らない街、マカオのカジノに私はいました。飛行機代くらいは稼いでやるか、といった感じです。カジノ場は、爆買い中国人らしき観光客で溢れており、ディーラーの声と、スロットの音と、なにより酒に酔った観光客の歓喜の声か、はたまた悲劇の声かで大変盛り上がっていました。まあ、なんとかなるだろう、ガイドブックでルールを覚えればか
りの私は、根拠のない自信を持って臨みました。今思えば愚かでした。絶好のカモ客、愚かな日本人です。ものの10分で、当初予算の4000香港ドルをすべて失ってしまいました。

このままでは悔しくて日本に帰れない、なんとかしなければ。そんな思いの中、カジノ場を彷徨っていると、ひと気のない、ルーレットが目につきました。ミニマムベットが10香港ドルで、非常に安く、またディーラーが無人で機械との勝負だったので、これは素人の自分にも良さそうだ、と。最初は色々な賭け方をしていましたが、ふと、「赤か黒かのどちらかにしか賭けず、まず10香港ドル賭け、負ければその倍の20香港ドル、さらに負ければその倍の40香港ドル、と賭けていき、1度でも勝てば、また10香港ドルに戻す、ということが続ければ、絶対に負けないのではないか」ということを思い立ちました。その後は、単純な作業でして、時に7連敗したときは心拍数が急上昇しましたが、それ以外は特にエキサイトすることもなく、朝の6時まで、感情を捨てて賭けるという作業を行い、無事損失分をすべてカバーすることに成功し、終了しました。結局残ったのは、元のお金、約4000香港ドルと、6時間ぶっ通しで賭け続けた疲労と睡魔でした。もう二度とカジノはしたくありません。



著者の宿泊したホテル、パリジャン・マカオ（外観）



著者の宿泊したパリジャン・マカオ（内観）

帰国後、その賭け方について検索してみると、すぐに出てきました。マーチンゲール法といい、最も古典的かつ有名な手法で、カジノ必勝法として永らく愛されてきた方法だそうです。マーチンゲール法は、理論的には必勝法ですが、現実には2つの制限があるため、必勝法ではありません。1つは、プレーヤーの資金余剰の問題、もう1つは、カジノ側のベット額制限です。今回の場合、ミニマムベットが非常に少額だったので、コツコツと稼ぐことができました。「多くの場合には少額の勝ちであるが、負けるときは大敗する」方法がマーチンゲール法だそうです。一攫千金のイメージがあるカジノとは真逆の方法です。カジノで手堅くその日の夕飯代くらいを稼ぎたい！ という方にはぜひおすすめです。お試しあれ。

話は変わりますが、今年の1月に、約1年ぶりに小野先生にお会いしました。恋愛相談の内容が、少しだけ進歩したのが嬉しかったです。とても真剣に相談に乗ってくださり、進むべき道を示してくださいました。良いご報告ができるように頑張ります（笑）

話は変わりますが、今年の1月に、約1年ぶりに小野先生にお会いしました。恋愛相談の内容が、少しだけ進歩したのが嬉しかったです。とても真剣に相談に乗ってくださり、進むべき道を示してくださいました。



女性に囲まれ照れる著者（著者は中央）



第13期同期会に乱入した第12期生たち（著者は中央）



第13期同期会 with 第12期のワンシーン（著者は左端）